

編 集 後 記

編集・校正に予期以上の日数を費し、発刊を遅らせて申し訳けなく思っています。

さて、玖珠神楽は本県では数少ない日向系神楽として、その地域的特性が注目されていたが、染矢先生の論考によって解明されたのは喜ばしい。また、加藤氏は大分県史編さん班に在籍され、最近の活躍は目覚ましいものがある。本号の論文もその一端であり、明治初期の民会発展過程と、大分県の民会の成立について論述されている。椋田氏の論文は、有名な西国筋郡代塩谷大四郎による代官見立新田を研究されたもので、地元研究者の利点を生かした労作である。

今年庚申の年である。岡部氏は以前から本誌に、大分市周辺の庚申信仰について発表を重ねてきたが、今回は大分市内と挾間町についてまとめられた。氏は近くトキハデパートで庚申塔の写真展を催される由である。ところで、日田市出身の政治家で、昭和初期の緊縮財政を推進した井上準之助の人物像を、彼の経済観に視点を置いて紹介された三重野氏の論稿も興味深いものがある。

入江先生には肩の凝らない軽妙なお便りを戴いたが、多年にわたるご研究の蓄積を随所に感ずる。また、中野氏から報

告された角木町の古文書にも興味をひかれる。祭礼の引き継ぎ文書は、各地に温存されていると思われるので、差支えない限り公表して貰いたいものである。最後に、史料紹介の拙稿は大分市の安部征二氏からご惠送を受けたコピーを転載させて戴いたものであるが、本誌の紙面をより多くの会員が利用されるよう切望する次第である。

(小玉記)

昭和五十五年十月二十日 印刷
昭和五十五年十月三十日 発行

大分県地方史 第九十九号

編 集 人 小 玉 洋 美

発 行 人 渡 辺 澄 夫

印 刷 人 中 尾 芳 郎

別 府 市 中 央 町 九 一 一 五

印 刷 所 日 の 丸 印 刷 株 式 会 社

電 話 〇三三四一

発 行 所 大 分 市 且 ノ 原 七 〇 〇 一 八 七 〇 一 一

大 分 大 学 教 育 学 部 国 史 研 究 室 内

大 分 県 地 方 史 研 究 会

(振 替 下 関 五 二 九 四 番)